

「放射能安全神話」で子どもたちの未来が危ない
主催：脱原発大分ネットワーク

なぜ私たちは 広島2人デモを始めたか

2013年3月23日 報告者：網野沙羅



大飯原発再稼働を野田政権が決めた危機意識から2012年6月16日、広島では「6.16 怒りの緊急デモ 大飯原発を止めよう！」がありました。1週間後にはまたやろうと主だったメンバーの中では話があったのですが、「大勢集めてやらないと意味がない」と翌週デモはなくなりました。大勢で集まることに目的が変わっていったのです。

街中には「原発はダメだ」という雰囲気がありました。多くの市民にとってデモは「自分の声の代り」になっていました。今必要なのは日常に、普段の声として原発反対の声があることだと感じていました。

宮崎駿が「No!原発」のカードをサンドイッチマンのようにして近所を歩いた。個人の政治意思表示です。それも背中を押しました。私一人で原発反対の意思表示をしようと思うと同僚の哲野に言う「そう言うと思った。同じことを考えていた」と返事があり、2人で始めることになりました。「黙っていることはYESと同じ」です。まず反対と言おう、政治的意思表示をしよう、それが2人デモのはじまりです。

1. 放射能安全神話」を準備したABCCとヒロシマ

9・11 広島市民による放影研デモの歴史的意義

2011年9月11日、広島市内で100人にも満たないデモが行われた。呼びかけたのは、「原発・核兵器なしで暮らしたい人々」という名前の広島の市民グループ。

2009年4月28日地元連絡協議会議事録開示の要望書を手渡した。4月28日の審議議題は『急性放射線被ばくによる免疫老化とその他の後遺症に関する研究』は適切な研究課題であるかないか。その研究が適切であるかないかの判断基準の重要な一つが、米国立衛生研究所（NIH）の一研究機関である国立アレルギー感染症研究所（NIAID）からの委託研究を受け入れるべきかどうか、という点。



この研究は「核テロ対策」という名目の、すなわち「放射線・核攻撃に対する医学的対策開発計画」という、一種の軍事研究の一環であったこと、また研究のテーマ上使用されるデータは、放影研が大量に保存する1945年の広島・長崎原爆生存者のデータを使用せざるを得ないこと、要約して言えば、アメリカの軍事研究のためにヒロシマベースを使用することの正統性・道徳性・倫理性が大きな論点

ヒロシマだからこそ できることがある。

ヒロシマ・ナガサキのヒバクシャアークが、「放射能安全神話」作りに関与していました。
核の軍事利用・産業利用のために、生命の重い犠牲を払い、できたのが「放射能安全神話（イミダ）」です。
放影研の放射線による免疫老化に関する研究は、核兵器などでの放射線利用にわたっているものも少なくありません。
この「ヒロシマの神話」を利用する「神話（安全神話）」は「放射能安全神話」として作り出されているのです。
第三、第三のフタを開くことにより、神話の子どもたち、なにより私たち自身や未来の命を守るために、そのデータを隠蔽し、また隠蔽しつつあると見られる、元 ABCC（放射能被害研究）に抗議の声を挙げたいと思います。
これは、最初の第一歩です。

雨天
決行

途中からの参加
途中までの参加も
OKです！

9.11 脱原発 ABCC (比治山) デモ

一放射能安全神話はここから始まった一

日時：2011年9月11日（日）10:00～12:00

10:00 原爆ドーム前スタート集合
10:30 脱原発 ABCC (比治山) デモスタート
■原爆ドーム前→相生通り→駅前通り→ABCCへ
12:00 比治山・ABCC 前に到着予定
参加自由。
食べ物・飲み物、アピールできるものをご用意ください。

主催：原発・核兵器なしで暮らしたい人々

連絡先：090-4740-4608（犬野）、070-5052-6580（藤井）、080-3885-9466（西郷）
事務局：〒733-0022 広島市西区天満町13-1-709 FAX 082-297-7145
ブログ：「みんなでワークのブログ」<http://ameblo.jp/9-ghiroshima-web/>

これは応援チラシです。作成：観野沙羅

2. 放影研の前身のABCC

原爆傷害調査委員会 (Atomic Bomb Casualty Commission)

「広島・長崎原爆の人体に対する電離放射線の影響を調査・研究するために、1946年11月26日にハリー・トルーマン大統領指令が全米科学アカデミー (National Academy of Sciences—NAS) の全米研究評議会 (National Research Council—NRC) に出されてその任務の担当を命じた。それがABCCである。従ってABCCは純粋に学術研究機関である。」

アメリカの公式な説明

ABCCはいつ誰が創設したのか？

1945年8月 広島・長崎に原子爆弾投下

1945年9月 アメリカ陸軍・アメリカ海軍の軍医団は、旧陸軍病院宇品分院に収容された被爆者から陸軍医務局、東京帝国大学医学部の協力で、都築正男博士、Dr. Oughterson、Dr. Warrenによる日米合同調査団を編成、約1年間の被爆調査が行われた。ここでの収集資料の解析に日本の研究者の参加は認められず、全調査資料が米国に送られ、アメリカ陸軍病理学研究所に保管された。

1946年11月 原爆放射線被爆者における放射線の医学的・生物学的晩発影響の長期的調査を米国科学アカデミー—全米研究評議会(NRC)が行うべきであるとするハリー・トルーマン米大統領令が出され、10日後に4人の専門家が広島入り。

1947年3月 広島赤十字病院の一部を借り受けて原爆傷害調査委員会 (ABCC) 開設


アメリカ軍部が調査活動を開始

全米科学アカデミーのサイトで公開されている

「ABCC 全体報告 1947」

1947年1月

3. ABCCは事実上アメリカ軍事医学研究調査機関 軍事医学研究に学術研究の外観を被せる

「原爆損傷の調査研究」という軍事医学研究に、学術研究の外観を与えるためだった、という推測がなりたつ。これが推測以上のものであることは、この「1947年全体報告」自体がアメリカ軍部に当てられた報告書だったことでもわかる。

核産業がもっとも恐れたことは一般大衆の 「放射線被曝」に対する医科学的理解からくる恐怖

『…核兵器の開発と結びついた放射線に関する研究にたずさわった科学者が何よりも恐れ、対処すべき難題の第一のものと考えたのも、放射線被曝による人類の緩慢な死に対する人々の恐怖が広がることであった。』

中川保雄『放射線被曝の歴史』(株式会社技術と人間 1991年)P44



すべての核装置・核設備の存在を許さないという考えが広まる

『…このためアメリカの原子力委員会やNCRPは、1940年代の終わりと1950年代のはじめにかけて、放射線による遺伝的影響の問題において、いかにすれば主導権を握って国際的議論をリードし、**リスク受忍論を支柱とする許容線量体系を全面的に導入することができるか、というテーマに必死になって取り組むことになった。**』

核分裂物質の採掘から精錬から始まって、核装置・核設備まで、核は事故を起こさなくても放射能を放出し続ける。

放射線被曝に対する一般大衆の恐怖を取り除き、また核従事者や一般大衆に被曝の基準を与えるための「科学的装い」を凝らした権威機関が必要になりつくられた。NCRP (National Committee on Radiation Protection- NCRP) この国際版が国際放射線防護委員会ICRP (International Commission on Radiological Protection)

4. 放射能安全神話の形成

ABCCが広島・長崎で収集した原爆生存者の歴大な「被曝データ」は、2つの目的に利用。

- ① 当時真剣に検討されていたソ連を仮想敵国とした「核戦争」における、アメリカ兵士、国民の放射線防護計画策定のための基礎資料。
- ② 計画していた「核の産業利用」に伴う核産業従事者や一般公衆への被曝基準作りの基礎資料。

『放射線は大量に外部から浴びない限り、健康に大きな害がない』という「放射能安全神話」が是非とも必要だった。それには「科学的外観」が是非とも必要だった。



広島と長崎の原爆で人体に有意な放射線の影響は、爆発時に生じた一次放射線（そのほとんどはガンマ線と中性子線である）による影響のみであって、残留放射能や放射性降下物（フォールアウト）などによる放射線の健康損傷はなかった、という仮説を作り、その仮説に合致するような調査を行った。また被爆者調査方針も一次放射線を浴びた被爆者の健康損傷の状況に限定した。



放射能安全神話

（放射能安全神話形成にヒロシマも協力）



多くの広島市民がこの事実を知らない

5. 広島2人デモを始めてわかったこと

- ① 多くの市民は無関心に見えて被曝問題や原発問題に関心はある。
- ② しかし政党・宗教団体・労働組合などの影響下にあると見られれば目的は別にあると疑われる。
- ③ 世界的原発ベンダー・三菱重工業の城下町では経済利益共同体からの根強い無言の圧力がある。



スローガン連呼型のデモは「反原発・反被曝」の訴えには有効ではない
広島市民のニーズは、

- ① 今実際に何が起きているのかに関する情報
- ② これからどうなるのかを考える材料

一言でいえばマスコミを全面的に信頼しているわけではないが、かといって考える材料・情報・知識・分析などが不足していることを感じている。



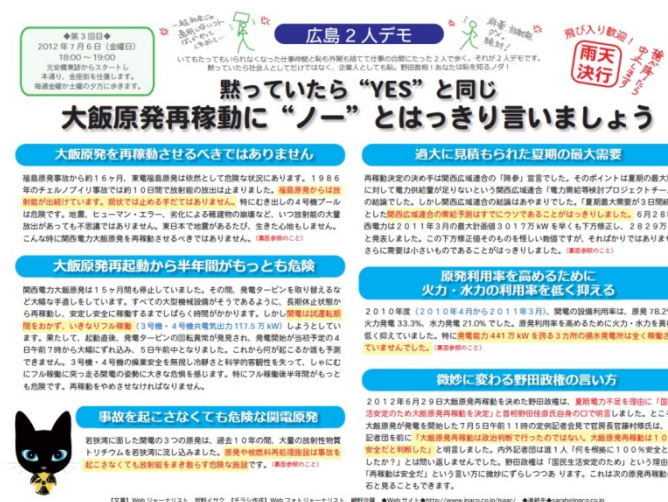
デモのスタイルの試行錯誤開始

最初の2回は大いに見当はずれだった・・・

基本方針

- 以上のような方針で3回目からチラシを作成開始。「反被曝・反原発の営業マン」になることを決意。デモ時の市民の反応は貴重な情報としてリサーチを心がける。

火曜・水曜に編集・調査、
木曜チラシ作り、金曜デモ



最初につくった第3回目のチラシ

7. 広島2人デモ参加メンバーの変化

- 従来から継続している市民運動グループの人が3回目くらいまで参加



- 4回目以降、ほぼ3人に定着。

首都圏では金曜日にデモが大きく打たれていたこともあり、県外からの参加者や平和公園での飛び入りも時々あった。



- 8月半ばからほぼ現在常連になったメンバーが時々参加しはじめた
ほぼ4～5人に定着。



- 今年1月くらいから現在に続いている新メンバーが定着化
ほぼ6～8人に定着。

(ほんとうにたった2人だけのデモは第22回11月16日の1回だけ)

<現在の常連メンバーの特徴>

1. 自分なりに情報収集や分析をしている。
2. 情報を多角的に捉えるため、議論できる相手を求めている。(=本質に迫る)
3. 自分で考えて納得したことしか情報として信頼しない(=質問が飛び交う)
4. 批判は糧と理解しており素直に受け入れる。また自己批判の姿勢を持っている。
5. 全員に共通しているのは現在の状況に対する強い危機意識

いつもデモ後は立ち話の情報交換・分析・議論になる

8. 「広島2人デモ」スタイルの変化と定着

最初は哲野がスピーチ、網野がプラカードとスピーカーを持って歩く、他の人はチラシまきやプラカード。（時々他の人にもマイクを回す）



※シュプレヒコールがあったのは2回目まで

全員スピーチ。それぞれの視点や感性から自分が考えたり感じたことをスピーチ。一人一人のスピーチにオリジナリティと説得力。多様な視点と価値基準からの訴え。「広島2人デモ」のスタイルに。

最初はスピーチを全員尻込みした。「次回までに考えて来てください」とお願いする。すると「自分は何を自分は言いたいのか、伝えたいのか」と考えざるを得なくなる。多くの人に伝えるわけだから、嘘や不確かな事は言えない。調べ、まとめ、言葉にし、スピーチ原稿が出来上がる。スピーチすると市民から反応がある。また、言いたいこと、伝えたいことが日々の変化からどんどん出てくる。1回スピーチすると尻込みは消え、情報発信、政治意思表示の場になった。

大飯原発を止めましょう	
供給予測のごまかし	
関電に電力供給する独立発電事業者等	
発電能力	大阪ガス子会社 110万kW
	神戸製鋼子会社 140万kW
	電源開発姫路 50万kW
詳しくは配布のチラシをご覧ください	
資料出典：日本語ウエブメディア「日本の火力発電所」及び「電源開発」ホームページより	

プラカードは、単なるスローガンよりも
有意味なデータやトピックを取り上げる

9. Webサイトと連動したデモスタイル

8月ごろからwebサイトを開設し、チラシや報告を公開。

チラシ作り→告知→デモ実施→報告をパターン化。

特に報告は体験共有・情報共有の有力なツールとして捉え、全体の精力の半分以上を費やす。

＜詳細報告とwebサイト公開による変化と利点＞

1. 県外・海外など遠隔地の人と体験共有が出来る。
2. 市民の動向(リサーチ)情報が伝わる。
3. 情報提供がスムーズになる。
4. 遠隔地の人から応援はもとより議論や情報のやりとりが増えた。
5. 専門家からの指摘や情報提供も出てきた。
より正確な理解ができるようになった。
6. 広島2人デモが知られるようになり、
実際にデモで歩いてチラシを配る以上に
日本はもとより世界中の人に見てもらえている。
7. なにより自分たちの活動の記録・蓄積となる。
次の展望を考える材料になる。

日別アクセスランキング(ページビュー)

1位	2013年2月24日(月)	2119
2位	2013年3月4日(月)	2055
3位	2013年1月28日(月)	1792
4位	2013年1月27日(日)	1753
5位	2013年2月26日(火)	1586
6位	2013年3月1日(金)	1513
7位	2013年2月28日(木)	1374
8位	2013年3月3日(日)	1361
9位	2013年1月31日(木)	1254
10位	2013年2月12日(火)	1165
10位	2013年2月27日(水)	1165

※3月7日現在のアクセスランキング状況。

最近ではほぼ毎日のように1000以上のページビューがある。2012年8月は約400平均。10月は約200平均、12月は約650平均。2013年1月は約700平均、2月は約990平均。3月に入って、これまでに約1200平均。

10. 少しずつの拡大

- ① 全く新しいタイプ(3. 11以降問題の重要性に気づき、運動に参加してきた人たち)の参加・定着化
- ② チラシを受け取る人が増えてきた。(当初30枚が余った。現在は60枚が復路の途中でなくなる)
- ③ デモの通り道である本通り商店街および金座街の商店オーナーや従業員の人たちの支持が感じられるようになった。
- ④ 「広島2人デモ」Webサイトのアクセス増加とチラシ閲覧およびダウンロードの増加

気が付いたことは、一般市民は人生経験・実社会経験豊富で私たちよりはるかにモノや人や情報を見分ける能力を持ったレベルが高い人が多いということです。従って私たちの提示する情報や分析、あるいは主張なども中途半端で信頼のおけないものであれば重要視しない、ということもわかってきました。これまで、無関心・運動に参加しないと思われた一般市民の人でも実はそうではない、とわかりました。ですから耳を傾けてもらうだけの勉強と研究が私たちの側に必要だと気が付きました。そして1回1回手を抜かずに積み上げることが、大事なことだと気が付かされました。しかし現状ではまだまだです。大きなぶ厚い壁に蟻の入り込む隙間ができたかどうか・・・

1 1. 今後の展開 今のままでは“山”は動かない。 私たちの自己満足で終わってしまう。

1. 今のスタイルを基本として継続の中から見えてくることがあるだろうと考えている。➡これから試行錯誤
2. 漠然と見えてきたこともある。←多くの視点と建設的討論が必要
3. 基本は「反被曝運動」に軸足を置いて多くの市民の自由参加が可能なスタイルを作り出すこと
↓
例えば『オープン討論ラリー』など
4. 基本は定期的・定点的・継続的 集会形式だろう
5. みなさんのご意見を求めたい。

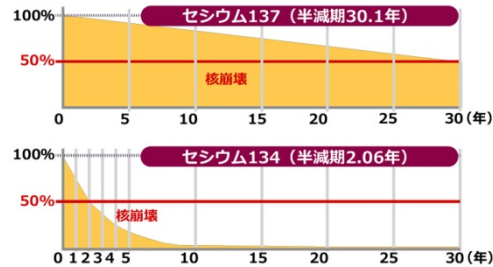
私たちは“巨大な山”を動かさなければなりません。
例え何年かかろうとも・・・

ご清聴ありがとうございました。

別添：今まで作成したプラカードの例

“放射性セシウム”のトリック

2～3年で大幅減少に見せかけられる



がんや白血病ばかりではない放射線健康損傷

脳血管系疾患
呼吸器系疾患
内分泌代謝疾患
虚血系心疾患
循環器系疾患
消化器系疾患
泌尿生殖器系疾患
筋骨格系疾患

免疫低下

狭心症
心臓病
皮膚病
皮膚炎
湿疹

精神的障害
知能低下
IQ低下など
敗血症
慢性耳炎
高血圧
骨関節炎
潰瘍・胆石・胆嚢炎など

伝染病
寄生性の病気
女性不妊症
奇形
乳児死亡
新生児死亡
死産

東電福島 1～3号炉内の
放射性物質は 300t

ウラン235のみで
(1～3号機)
広島原爆の612発分

これから始まる世界的な
核施設の廃棄ラッシュ

最大の関心事はコストダウン

低レベル放射性廃棄物の
産業廃棄物化

そうです。「震災がれき広域処理事業」です

フクシマ
事故から
2年

これから本格的にはじまる

低線量内部被曝危機

私たち一人一人が『市民科学者』
になることが唯一の防護策です

福島県民健康管理調査

第10回検討委員会 (2013年2月13日)

評価

「これまでの疫学調査から
放射線による健康損傷はない」

広島・長崎のLSS
(原爆生存者寿命調査) です

フクシマ事故の衝撃

多くの西ヨーロッパ諸国市民が

ノル웨이・アイルランド・オーストリア (憲法で禁止)・ポルトガル・マルタ
デンマーク・ラトビア・ギリシャ・ルクセンブルグ・ドイツ・スイス・イタリア
ベルギー・オランダ・スウェーデン・スロベニア・イギリス・フランス

原発の息の根を
止めつつあります

おかしな逆立ちした 世界に暮らす私たち

電気は私たちの生活の道具

原発は電気をつくる手段のひとつ
私たちの道具の手段に使われる私たち
電気 原発

LSS (原爆生存者寿命調査) の主な誤り

- ① 原爆投下から 1949 年 12 月末までの死亡者データを含まず
- ② 外部被曝のみの傷害調査
- ③ 内部被曝のリスクは外部被曝と同じと仮定
- ④ 低線量の傷害「がん」のみと仮定